

利用率100%達成」ほぼ確実

廃棄物系バイオマス活用

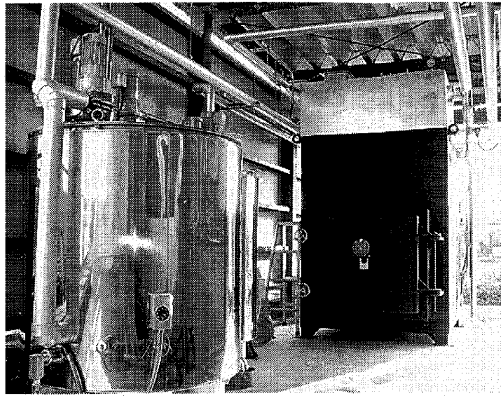
ミートコンパニオンは新潟第2工場（新潟県十日町市）で「地域バイオマス活用交付金」を受けてバイオマスボイラーを導入し昨年10月に正式稼働させたが、効果を上げ始めた。09年度の目標として掲げた浮上油脂（フロッグ）と純水油（ロード）を合わせた廃棄物系バイオマス利用率100%達成はほぼ確実で、プロセス処理費用削減、既存のボイラー燃料費低減とCO₂排出量削減を同時に、事業計画に明記した「資源循環社会形成」にも大きく貢献しそうだ。同社は「プロセス処理費用削減とボイラー燃料費低減で年間約960万円の経費削減を達成できる」として導入効果を高く評価している。

ミートコンパニオン 導入機で実証

同センターではバイオマスボイラー導入以前、グリ程や工場内の洗浄、使用するストラップに蓄積されるフロッグは産業廃棄物として専門業者に処理を委託していたが、処理費用が年間約850万円かかっていた。また、製造段階で排出されるロードは業者が無償回収していた。現在ではこれらを、ボイラー導入を軸としたサイマルリサイクルを構築することで、約8000kgと高燃焼カロリーの燃料として活用している。

また、食品加工の加熱工程や工場内の洗浄、使用する温水を作るのに、A重油を1日当たりの8430使用していた。これがボイラー導入に合わせて作った給湯システムによって燃焼熱を利用して温水が確保できるようになったことで、A重油の使用量を約2割削減できた。

交付金申請時に提出した事業計画書によると、導入の効果として「カーボンニュートラルな動植物性廃油のエネルギー化、代替燃料化でCO₂削減を目指す」「地域内で発生した高カロリーの燃料は地域内で利用する自己完結型のシステムを稼働することができ、資源循環社会形成のための効果が期待できる」としている。



バイオマスボイラーの導入でプロセス処理費用削減、ボイラー燃料費低減とCO₂排出量削減を実現した

今回導入したバイオマスボイラーはグリーンエナジー（本社）新潟県十日町市が開発したもので、正式名称は「ACEバイオマスボイラー」。800度以上の燃焼温度でプロセスやロード、木材チップ、BFD

Fなどの廃棄物系バイオマス燃料を燃焼させながら、高温燃焼によりダイオキシン類が分解されるだけでなく、酸性雨の原因となる窒素酸化物（NO_x）や硫黄酸化物（SO_x）などの有害物質の放出も防ぐ。完全燃焼させたため焼却灰も大幅に減容する。現在、食肉加工品、水産加工品、フリーズドライ食品、菓子などの食品関連メーカーで導入が進んでいる。ボイラーの心臓部となる廃棄物焼却システムは昨

年12月に、グリーンエナジーと開発パートナーの朝田商会が共同で特許（特許4417194号）を取得している。今回のプロジェクトはグリーンエナジーと拓越（本社）新潟県十日町市がシニアエンジニアとなり、十日町市環境政策室の指導を受けながら効果検証を実施して、システムを構築した。つまり、地元の官民が一体となって取り組んだ環境対策が生んだ大きな成果といえる。（木下猛統）

油のエネルギー化、代替燃料化でCO₂削減を目指す」「地域内で発生した高カロリーの燃料は地域内で利用する自己完結型のシステムを稼働することができ、資源循環社会形成のための効果が期待できる」としている。

同社は「今後も、地元バイオマス利用率100%を達成すればクリアしたことになる。」「これも廃棄物系バイオマス利用率100%を達成すればクリアしたことになる。」「これも廃棄物系バイオマス利用率100%を達成すればクリアしたことになる。」「これも廃棄物系バイオマス利用率100%を達成すればクリアしたことになる。」